

「影印 翻刻 現代語訳 顕正流義鈔」出版に思う

真宗高田派本山専修寺宝物館「燈炬殿」 館長 大野 照文

真宗高田派本山専修寺宝物館「燈炬殿」では、今年三月十四日から五月六日にかけて「真慧展」を開催しております。これは、高田短期大学の「仏教教育研究センター（旧仏教文化研究センター）」より「影印 翻刻 現代語訳 顕正流義鈔」が出版されたことを記念してのことです。

『顕正流義鈔』を著された高田派第十世の真慧上人は、当時混乱していた教義を普遍性のあるものへと正すとともに、各地の小集団をまとめ、今の高田派の礎を築かれたと聞いております。今から五百年も前のことです。上人はその業績から高田派中興の祖と称えられておられます。

この「顕正流義鈔」の影印翻刻、現代語訳の作業は、平成十一年から二十四年の歳月をかけて昨年ようやく完成、出版されましたが、おりしも昨年の大法会の一環として営まれた中興真慧上人五百年忌に彩をそえるものでもありました。

真慧展に先立ち、私も現代語訳を読ませていただきました。特に注目したのは、「極楽浄土の仏

・菩薩は、そこをお動きにならないけれども、あらゆるところに働く普通の徳をお備えである。」という一節で、この徳はまさに万有引力と同じく、宇宙にあまねくあてはまる法則であることを述べられたものと思います。このことを理解すれば、「生れながらに自然と他力の不可思議な縁によって導かれる身に生まれさせていただいたことは、まったく阿弥陀仏の法爾自然の道理よるものであることを、よろこびたのしむべきである。」との文言もすんなりと腑に落ちます。簡明にして深い真慧上人のお教えに接して、心が清められる思いがいたしました。現代語訳は、門外漢の私でさえ感動を覚えるまでに「顕正流義鈔」の精神を伝えていきます。是非とも壇信徒を始め多くの皆様に読んでいただき、高田の教えの深奥を再認識していただきたく思います。

言 頭 卷

さて、「真慧展」で展示いたしました法宝物二十五点の内、十五点は、高田派寺院九カ寺からのご出陳です。真慧上人ゆかりの法宝物が五百年近くにわたって、多くの寺院で大切に保存されていることから、壇信徒の皆様の真慧上人に対する親しみと尊敬のお気持ちを讀み取れます。

新宝物館「燈炬殿」の完成により、各寺院で五百年近く大切に保存されていた法宝物が結集することがかかいました。これも、親鸞聖人、そして真慧上人の教えをもう一度深くかみしめ、さらに高田派を発展させよとの阿弥陀仏の大きな思召しかと存じます。「真慧展」は、高田の教えを伝え、深め、広める上での宝物館「燈炬殿」の重要な使命を再認識する機会ともなりました。

宗 達

宗 達 第一二〇七号

真宗高田派宗制七十九条第二項により令和六年五月二十九日第一八〇宗議會を召集せらる

令和六年三月七日

法主鈴印

宗務総長 大僧都 増 田 修 誠

宗 告

宗 告 第一一六七号

来る令和六年五月二十一日午前十一時三十分より宗祖降誕会執行相成る

令和六年三月七日

宗務総長 大僧都 増 田 修 誠
総 務 中 僧 都 藤 谷 知 修
総 務 中 僧 都 弓 削 弘 胤

宗 告 第一一六八号

来る令和六年六月二日第五十七回高田派婦人連合大会執行相成る

令和六年三月二十一日

宗務総長	大僧都	増田修
総務	中僧都	藤谷知
総務	中僧都	弓削弘
		胤良誠

任 免

令和六年三月二十六日

福井別院会計監査を委嘱する

安養院

土井 幸広

依請解其職

三重第十二組東部組長

堅田 光英

令和六年四月一日

真宗高田派共済会理事を命ずる

了性寺住職

藤井 徳雄

令和六年三月一日

三重第十二組東部組長を命ずる

来迎寺住職

鷹阪 妙法

令和六年三月三十一日

依請解其職

真宗高田派共済会理事

采翠 昭道

組長交代

住職拜命

令和六年三月二十九日

三重県亀山市白木町

誓信寺住職

誓信寺衆徒

柏原 真教

三重県鈴鹿市須賀

林昌寺住職

林昌寺衆徒

花満 真亨

三重県松阪市新町

眞臺寺住職

眞臺寺副住職

日野 倫弘

依請解其職

眞臺寺住職

日野 雅道

三重県多気郡明和町大字大淀甲

迎接寺住職

迎接寺衆徒

花山 泰三

依請解其職

迎接寺住職

花山 光瑞

三重県鈴鹿市寺家

正因寺住職

正因寺副住職

鷲尾 敦行

依請解其職

正因寺住職

鷲尾 恵門

三重県津市高野尾町

補 豊久寺住職

豊久寺衆徒

松森 快正

依請解其職

豊久寺住職

熊谷 深信

三重県鈴鹿市若松西

補 台蓮寺住職

台蓮寺衆徒

海原 琢磨

副住職任命

令和六年二月二十五日

三重県津市河辺町

任 善休寺副住職

善休寺衆徒

千草 善哉

住職代務者

令和六年二月一日

三重県亀山市関町久我

光圓寺住職

望月 和光

三重県亀山市関町新所
誓正寺住職代務者

依請解其職

誓正寺住職代務者

松山 深令

令和六年二月二十六日
三重県津市安濃町妙法寺

西林寺住職

佐々木善徳

三重県津市安濃町粟加
補 正全寺住職代務者

令和六年三月二十九日

三重県亀山市白木町

誓信寺住職

柏原 真教

三重県津市新家町
補 光蓮寺住職代務者

得度

令和六年三月二十九日

三重県四日市市日永

信楽院 妙香

准上座格三等

興正寺衆徒

浅川八重子

三重県津市河芸町

白法院 亮祐

准上座格三等

浄光寺衆徒

佐々木亮祐

三重県松阪市新町

清澄院 貴崇

准上座格三等

眞臺寺衆徒

日野 貴崇

三重県津市久居野村町

燈炬院 慈耕

院家一等

浄徳寺衆徒

美濃部耕治

三重県亀山市小野町

永明院 道哲

院家一等

眞善寺衆徒

小川 道の

三重県津市久居野村町

浄懐院 自然

院家一等

浄徳寺衆徒

佐藤 懐

三重県津市一身田町

旭光院 香代 老分二等

厚源寺衆徒

林 香代

三重県津市河芸町上野

哲光院 春覚 老分二等

満流寺衆徒

笠井 啓多

三重県鈴鹿市神戸

唯信院 良啓 中老一等

願行寺衆徒

榎森 良啓

三重県津市芸濃町河内

演暢院 穫伸 中老二等

成覚寺衆徒

有爾 伸穫

特許法衣

令和六年二月八日

一、薄藤色八藤白大紋差袴着用を許可する

善性寺住職

藤喜 光樹

身分堂班

令和六年二月八日

列 其身一代堂班

院家首席一等

准上座格三等 准上座格二等

善性寺住職 藤喜 光樹

令和六年二月十六日

列 其身一代堂班

院家首席一等

准上座格三等

迎接寺衆徒 花山 泰

改姓

三重県津市大里小野田町

中西と改姓する

長久寺住職

恒河かおり

布教任命

三月御影堂常在説教（晨朝）

讚佛会復演

三・二〇 日中

大僧都 清水谷正尊

三・一

權中僧都 里榮 秀教

三・二

權中僧都 藤浦 弘導

三・三

少僧都 藤澤 真樹

三・四

權中僧都 鷲山 了悟

三・五

權大僧都 戸田 栄信

三・六

律師 隆 妙灑

三・七

律師 堤 一真

三・八

權中僧都 生桑 崇等

三・九

中僧都 青木 義成

三・一〇

權中僧都 田中 明誠

三・一一

律師 吉尾 真祐

三・一二

律師 隆 妙灑

三・一三

律師 磐城 英嗣

三・一四

中僧都 戸田 恵信

三・一五

權少僧都 眞置 信海

三・一六

權中僧都 田中 明誠

三・一七

大律師 北島 大道

三・一八

律師 北島 心淳

三・一九

權大僧都 浦井 宗司

三・二〇

權少僧都 岡 知道

三・二一

權中僧都 高藤 英光

三・二二

少僧都 栗廼 隆興

三・二三

晨朝 上田 英典

三・二四

日中 高藤 英光

三・二五

晨朝 高藤 英光

三・二六

日中 高藤 英光

三・二七

晨朝 高藤 英光

三・二八

日中 高藤 英光

三・二九 中僧都 青木 義成
 三・三〇 権中僧都 上杉 祥樹
 三・三一 大律師 高島 光憲

三月御影堂常在説教(速夜・日中)

三・七 少僧都 山中 真諭
 三・八 権中僧都 栗廻 隆興
 三・九 権中僧都 村上 英俊
 三・一〇 律師 水谷 忍英
 三・一五 律師 龍池 宏昭
 三・一六 律師 水谷 忍英

千部法会(日中)

四・六 権中僧都 藤浦 弘導
 四・七 権中僧都 松山 智道
 四・八 少僧都 千草 篤昭

十萬人講法会(日中)

四・九 権少僧都 真置 信海
 四・一〇 律師 水谷 忍英

戰没者追弔法会(日中)

四月御影堂常在説教(晨朝)

四・一 権中僧都 中村 宜成
 四・二 中僧都 青木 義成
 四・三 律師 龍池 宏昭
 四・四 権大僧都 戸田 栄信
 四・五 権中僧都 上杉 祥樹
 四・六 権中僧都 田中 明誠
 四・七 律師 若林 妙百
 四・八 権中僧都 藤浦 弘導
 四・九 少僧都 岡 知道
 四・一〇 権中僧都 里榮 秀教
 四・一一 律師 堤 一真
 四・一二 権中僧都 鷲山 了悟
 四・一三 律師 山中 久行
 四・一四 権中僧都 中村 宜成
 四・一五 権中僧都 田中 明誠
 四・一六 権少僧都 真置 信海
 四・一七 律師 磐城 英嗣
 四・一八 大律師 北畠 大道

四・一九	権中僧都	生桑	崇等
四・二〇	律 師	田中	唯聰
四・二一	中僧都	戸田	恵信
四・二二	権中僧都	三井	蓮孝
四・二三	律 師	水沼	碧水
四・二四	律 師	北畠	心淳
四・二五	律 師	堤	一真
四・二六	権大僧都	浦井	宗司
四・二七	律 師	隆	妙灑
四・二八	律 師	吉尾	真祐
四・二九	権中僧都	栗真	光暁
四・三〇	大律師	高島	光憲

四月御影堂常在説教(速夜・日中)

四・一五	速夜	権中僧都	村上	英俊
四・一六	日中	律 師	隆	妙灑
高田慈光院 月例法会				
三・一〇		律 師	若林	妙百
三・一六、二六		律 師	隆	妙灑
四・一〇、一六、二六		少僧都	山中	真諭

高田報徳園 月例法会

三・一五	権少僧都	高藤	英光
四・一五	少僧都	山中	真諭

敬 弔

次の方々が御往生なさいました。謹んで敬弔の意を表します。

令和六年

二・八 三重県松阪市嬉野八田町 義明寺前坊守 高藤 高子

二・二十八 新潟県中魚沼郡津南町大字赤沢 長泉寺坊守 柳澤 トリ

三・一 三重県津市美杉町下ノ川 西念寺坊守 村瀬 はな

三・七 福井県大野市庄林 真浄寺前坊守 日下 文枝

三・二十七 三重県鈴鹿市河田町

本立寺前坊守

米澤 次子

四・一 三重県桑名市南寺町

輪崇寺住職

誓山 堯夫

贈 権中僧都

四・二 三重県津市安濃町川西

正法寺住職

富田 浄徳

贈 権少僧正



報恩講懇志芳名

本年度の報恩講（お七夜）例年通り一月九日より十六日御満座まで御執行成り、念仏相続の喜びを十分に味わう事が出来ました。

ご懇志芳名を左の通りに記載し感謝の意を表します。（二月一日～三月二十五日受領分）

三重十五組 福泉寺

愛知三組 浄泉寺

第四十八回住職補任研修会報告

去る二月二十四日（土）午後より二十五日（日）午前中まで、住職補任研修会が、教師三名参加の下に開催されました。

尚、研修内容は次のとおりです。

真宗教義と高田派の歴史 九十分

宗教法人法・寺院規則 六十分
住職道・布教道 九十分

声明 九十分

晨朝参拝・説教聴聞 九十分

法式作法 九十分

参拝課業務案内 三十分

現状と課題（座談会） 六十分

以上

第五十七回

高田派婦人連合大会のお知らせ

六月二日（日）十時より御影堂にて婦人連合大会を開催いたします。

式典を行なった後、講師に山梨県大月市本願寺派福泉寺住職の小笠原博慧先生をお迎えして講演をしていただきます。

今年はず師寿表彰を久しぶりに執り行いますので、お誘いあわせの上、是非ご参加ください。

なお、参加がむずかしい祖師寿該当者の方には、例年通りご寺院様宛に賞状と記念品をお届けさせていただきます。

令和六年 高田派青年の集い

本寺大会〓念仏高田の源流〓 ご案内

六月二十九日（土）〓三十日（日）

本年の高田派青年の集いは、法嗣殿が青年会会長に就任された記念すべき大会で、親鸞聖人が専修念仏の根本道場とされた本寺を訪れます。講師には高田派鑑学、栗原廣海師をお迎えいたします。本寺・御田跡を訪ね念仏高田の源流を学びましょう。

これからの青年僧侶の皆様には、是非ご参加いただきたいと思います。

二十九日（土）

十二時 東京駅出発

十四時半 本寺・開会式

十五時 講演

講師 鑑学 栗原廣海師

十九時 新会長就任祝賀会

三十日（日）

九時 西念寺（稲田御坊）

十一時 稱名寺（結城市）

十五時 東京駅解散

〇申込先

宗務院内 高田派青年会事務局

（TEL）〇五九―二三二―四一七一

（FAX）〇五九―二三二―一四一四

本山行事予定

(五月・六月)

五月六日～八日

堯祺上人御正當

五月二十一日

親鸞聖人降誕会

六月二日

第五十七回高田派婦人連合大会

六月

高田派仏教保育講座

六月二十九日～三十日

高田派青年の集い

お詫びと訂正

宗報第九四八号（令和六年二月）におきまして、興学布教研究大会の案内を掲載いたしました。諸般の事情により発表者を津市真楽寺住職鷺山了悟師から岡崎市浄泉寺衆徒戸田栄信師に変更いたしました。謹んでお詫び申し上げます。

下付金のお知らせ

平成三十年度分院号下付金、及び納骨壇加入下付金を専修寺正味財産に計上いたします。

（令和六年五月三十一日付）

院号冥加金、及び納骨壇加入冥加金の下付金は納入された年度から、五年を経過したものは、専修寺正味財産に計上されるため、交付出来ませんのでご注意ください。

詳しくは宗務院財務課までお尋ね下さい。

真宗高田派共済会のご案内

真宗教学奨学金

真宗高田派の寺族で真宗教学に関する研究心旺盛な者に対して、奨学金を貸与します。

・高等学校生及び真宗各派の専修学院生	月額	2万円	若干名
・大学生及び大学院生	月額	4万円	若干名
・ ” ”	月額	8万円	”

提出書類：所定の申請書1通、在学証明書1通(学生証の写可)
返済に関する事項を熟知下さい。

奨励金

真宗高田派の僧侶が、定められた学校に入学したときに、奨励金を支給します。

・奨励金 4万円

提出書類：所定の申請書1通、入学証明書又は在学証明書1通
(学生証の写し可、合格通知書は不可)

定められた学校とは、下記に該当する学校及び学科です。

真宗各派の専修学院、私立高田高等学校、大学の真宗学科及び仏
教学科 短期大学の真宗学科及び仏教学科

上記の申請は毎年3月1日から5月末日までに行ってください。
申請に関する事項及び詳細につきましては共済会担当までお尋ね
下さい。

給付及び申請のお問い合わせは、下記の共済会担当まで
お尋ねください。

〒514-0114

三重県津市一身田町2819番地

真宗高田派宗務院内

真宗高田派共済会

電話 059-232-4171

F A X 059-232-1414

人権擁護啓発活動重点項目

- 一、国際時代にふさわしい人権意識を育てよう。
- 一、子どもの人権を守ろう。
- 一、高齢者の人権を尊重しよう。
- 一、病気・部落などによる差別をなくそう。
- 一、障害者の完全参加と平等を実現しよう。

「三重県人権教育基本方針」より抜粋

令和六年四月二十五日印刷
令和六年四月二十五日発行

三重県津市一身田町二八一九番地
電話（〇五九）二三三―四一七一
<http://www.senjui.or.jp>

真宗高田派本山専修寺

発行所 宗務院

振替〇〇二五〇―〇一五一九四番

三重県津市一身田町七六五番地

印刷所 相和印刷所

電話（〇五九）二三三―二〇七〇